

変わらなくちゃ、情報処理学会
(2012.3.6大会企画セッション)

久野 靖

(初等中等教育委員会・筑波大学)

このセッションに至る経緯

- 情報処理教育委員会 — 教育・人材育成について扱う委員会
- 学会創立50周年を機会に「教育ビジョン」を公表し、教育の重要性を訴えようと企画
- （50周年には間に合いませんでした、、、）
- 「教育ビジョン2011」を昨年末に公表
 - 「自分たちの分野に閉じこもるのではなく、世の中に出て行く」宣言

「教育ビジョン2011」で分かったこと

- 情処学会はもっと社会に責任を持つべき → 「変わらなくちゃ、情報処理学会」
- 他の学会や団体の活動に学ぼう！ → 本企画
- 講演、パネリスト
 - 笥 捷彦（情報処理教育委員会）：教育ビジョン2011について
 - 原島 博（電子情報通信学会）：未来世代から学ぶ－電子情報通信学会における試み－
 - 斎藤富士夫（NPO湖南ネットしが）：企業人から社会人へ
 - 寺田真敏（教育担当理事）
 - 児玉公信（技術士委員会）

いくつかの質問

- Q1. 学会というものは、「教育」とどのように向き合うのがいいのでしょうか？
- Q2. 退職等で時間が取れる状況になった技術者が教育に貢献しようとしたとき、学会はどのようにお手伝いするのがいいのでしょうか？
- Q3. 学会を自分たちとは縁のない遠いものと感じている現場(生徒、先生)に対してどのようにアプローチするのがいいのでしょうか？
- Q4. 学会内外の、自分の仕事や研究のことしか頭にない人たちに振り向いてもらい、教育に関わってもらうには、どうしたらいいのでしょうか？

Q1.

- 学会というものは、「教育」とどのように向き合うのがいいのでしょうか？
 - たとえば「理数系学会教育問題連絡会」などに参加すると、どの学会も「自分たちのバトンを渡す世代を育てる」ことに非常に真剣
 - 情報処理学会には全然見られない雰囲気
 - 高校にこれまで無かったという言い訳は成り立たない(例：機械学会なども活発な活動)
 - 心を改めて、、、何をすれば？

Q2.

- 退職等で時間が取れる状況になった技術者が教育に貢献しようとしたとき、学会はどのようにお手伝いするのがいいのでしょうか？
 - ビジョン検討の頻出語：「シルバー人材センター」
 - われわれは専門技術者・研究者が多くいる学会
 - 退職したすばらしい先輩方も多数知っている
 - ぜひとも社会に活かすべきでは？
 - 「でも、どうやって？？？」

Q3.

- 学会を自分たちとは縁のない遠いものと感じている現場(生徒、先生)に対してどのようにアプローチするのがいいでしょうか?
 - 小学校～高校の現場にとって「学会」は遠い存在
 - そもそも学校は多くの困難を抱えて忙しい
 - その中で「新しいことの取り組み」は敷居が高い
 - どうやって知ってもらい、一緒にやってもらおう？
 - こちらの協力者もそんなに労力を強要できない？

Q4.

- 学会内外の、自分の仕事や研究のことしか頭
にない人たちに振り向いてもらい、教育に関
わってもらうには、どうしたらいいでしょ
うか？
 - 学会員の大半は「仕事に忙しい」「研究のため学
会に参加」→教育に無関心。まして学会外、、、
 - それを「変わらなくちゃ」と思ってもらうには？
 - 今どんなにまずい状況かとか脅かす？TVCM？
 - インセンティブなんて無理？学会を分ける？

ここからは皆様から問題提起で

- あなたなら学会をどう変えますか？
- 変えるとしたら、どうやって？
- または、変えるのは無理？